

青雲館解体撤去工事仕様書

1. 工事内容

- 1) 建物の上屋、基礎、図面で指示する工作物等の全てを撤去する。
- 2) 建物内部に残存する建築仕上材、照明等全て撤去する。但し、照明についてはP C B存在調査を実施し、該当機器については監督員指定場所に運搬集積することとする。
- 3) 建物外部廻りの外構（集水桝、配管類等）は、図面で指示するものを除き全て撤去する。
- 4) 取り壊し撤去跡は、埋戻し・整地（補足土は山砂）・転圧を行う。
- 5) 石綿撤去工事。

2. 施工条件

- 1) 近隣に対して、解体工事及び場外搬出時は、周知徹底を図ること。
- 2) 上屋を解体する際は、道路を通行する住民及び車両に危害が及ばないように、安全確認に特に留意すること。
- 3) 解体工事等で道路を占有する場合は、各官庁への届出及び近隣への周知を遅滞無く行うこと。

3. 注意事項

- 1) 解体工事においては、解体建物の状況や敷地、現場周知状況（搬出入道路等）を十分に検討した計画を行い、騒音規制法、振動規制法等の関係法令に従うこと。
- 2) 解体建物にアスベストが含有している可能性のあるボード等は、石綿障害予防規制等の関係法令に従い処理を行うこと。
- 3) エアコン・室外機については、「特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律」に基づき、適切に回収・処分すること。
- 4) その他廃棄物の処理においては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の関係法令に従い適切に処理を行うこと。
- 5) 解体工事にあつては仮設給水等を確保した上で散水養生等を行い、粉塵等の飛散防止に努めること。
- 6) 給排水の配管ルートについては現地を詳しく調査の上、近隣住居の止水弁位置を確認し、適正養生を図り施工すること。また、各設備の端末はプラグ等でとめること。
- 7) 作業は原則として平日の昼間とし、これによらない場合は監督員との協議による。
- 8) 解体建物の設備を工事用水・電力として使用出来ないため、請負者にて対応するものとする。